

備えその3 マイ・タイムラインで災害時に備える

個人の防災行動を時系列でまとめた避難行動計画。自宅の状況や家族構成に合わせてチェックしましょう。

| 警戒レベル | いつでも避難できる準備 | あなたや家族の避難開始のタイミング |
|--|--|---|
| 1 早期注意情報 (気象庁が発表) 災害への心構え | <input type="checkbox"/> 防災情報の収集を始める <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> 町ホームページ <input type="checkbox"/> 行政防災無線(戸別受信機) <input type="checkbox"/> おうらお知らせメール <input type="checkbox"/> 町公式LINE <input type="checkbox"/> 避難場所と経路の確認 <input type="checkbox"/> 家族の予定を確認 | <input type="checkbox"/> 危険な場所にいる避難に時間がかかる人 高齢者、障がい者・支援者、妊婦・乳幼児など 警戒レベル3 高齢者等避難 で避難開始 |
| 2 洪水注意報、大雨注意報 など (気象庁が発表) 避難行動を確認 | <input type="checkbox"/> 家周辺の片付け <input type="checkbox"/> 避難しやすい服装の準備 <input type="checkbox"/> 非常持出袋の再確認 <input type="checkbox"/> 携帯電話の充電 <input type="checkbox"/> モバイルバッテリーの確認 いよいよ避難……その前に <input type="checkbox"/> 避難所の開設状況を確認 <input type="checkbox"/> 火の元、戸締りの確認 <input type="checkbox"/> 避難先を家族に連絡 | <input type="checkbox"/> 危険な場所にいる全員 避難に時間がかかる人以外 警戒レベル4 避難指示 で避難開始 |
| 3 高齢者等避難 (町が発令) 高齢者など避難 | 雨が強くなる前、暗くなる前に早めに避難 <input type="checkbox"/> 非常持出袋を持って避難 | 高齢者、障がい者・支援者、妊婦・乳幼児など、 避難に時間がかかる人は安全なところへ避難を開始する。 |
| 4 避難指示 (町が発令) 全員避難 | この段階では車で避難しない <input type="checkbox"/> 非常持出袋を持って避難 | 危険な場所にいる全員が安全なところへ避難を開始する。 |
| 5 緊急安全確保 (町が発令) 命を守る行動 | 命の危険 直ちに安全確保 すでに安全な避難ができない状況なので、その場の最も安全と思われる場所で身を守りましょう。 | 警戒レベル4までに 危険な場所から全員避難完了! |



災害用マンホールトイレ



町防災マップ

寄付金を活用し、災害用マンホールトイレを常備
 令和7年9月30日、鞍掛工業団地内に事業所を構える日清紡ブレイキ株式会社から「安心して暮らせる魅力的なまちをつくる事業」のためにと企業版ふるさと納税として、町へ5百万円の寄付をいただきました。その寄付金を活用し、全戸配布した防災マップの他、令和8年3月に災害用マンホールトイレを2基購入し、町民の安全と安心を守るために災害用備品として常備しました。

もしもの備えが災害時の命綱に



私たちの周りには多くの自然災害のリスクがあります。いつ起こるか分からない災害に対し普段から防災意識を高め、備えておくことが大切です。 役場総務課 ☎47-5018

大災害は突然に……
 災害はいつ起こるか誰にもわかりません。「災害は発生しないから大丈夫」「巨栗町は安全だから大丈夫」と油断していると逃げ遅れて被災するなど、取り返しのつかない事態が起こってしまうかも……。
 自分や家族の命を守るためにも、日頃から災害に備えておくことが大切。「備え」は決して難しいことではありません。
 備えて被害を最小限に
 災害大国と呼ばれる日本。全国で地震や台風、豪雨と多くの自然災害が多発しています。近年では、熊本地震や能登半島地震などにより、多くの建物が倒壊し、尊い命が奪われました。
 さらに今年の6月16日には、茨城県南部を震源とする地震が発生し、県内では震度5弱、町でも震度4を超える揺れを観測しました。このような自然災害は、いつ起こるか分かりません。しかし、災害による被害は「日頃の備え」によって最小限に食い止めることはできます。この機会に、備えを整えておきましょう。

備えその2 みんなの講座「町の防災」

町の防災担当職員が皆さんの集会などに伺い、行政区ごとの洪水時における浸水想定範囲や地震の被害、過去から現在までに町で発生した災害、季節ごとに懸念される災害の種類などを紹介します。その他にも、防災に役立つ情報などをまとめた町防災マップの見方や使い方を紹介します。



6月10日に寿荘で開催された講座の様子

町HP (災害情報) お知らせメール
 町が発信する情報はここからチェック
 町公式X 町公式LINE

備えその1 日常備蓄を整え災害を乗り切る

災害から命を守った後、ライフラインが回復するまでの間を乗り切るためには日常備蓄も必要です。最低3日、できれば7日間程度の生活ができるように準備をしておきましょう。普段から非常食などを食べる機会を作っておくと、災害時に食事のストレスにつながりにくくなります。

ローリングストック方式

レトルトやインスタントなど、保存性の高い食料や水を多めに買い置きし、消費したら買い足す防災備蓄方法。食べ慣れたものを備蓄でき、賞味期限切れのリスクも防ぐことができます。



飲料水
 1人あたりの1日に必要な飲料水は3ℓ

1日3ℓ×7日=21ℓ



非常食
 1人あたりの1日に必要な非常食は3食

1日3食×7日=21食



携帯用トイレ
 1人あたりの1日の平均排便回数は5回

1日5個×7日=35個

